

「鞍船遺跡の竪穴式住居作り」の授業記録から



鞍船遺跡（撮影：令和4年5月）

を作ることを目標にしました。

いよいよ作業開始です。まず、入口を南側にして、住居跡の平面図を運動場に書き、次は竪穴部分の穴掘り作業です。

作業は手作業が中心で、直立歩行により手が解放された人間の「もの作り」の原点です。

①手で作業をする。②手の延長としての道具を作る（道具となる物を探す）。③生徒が使える現在の道具を使って作業をする。このように、①②③へと順を追って進めました。

手が自由に使えても、石を探して石斧みたいに使っても、穴掘り作業はなかなか進みません。



大きな葉を使って水を運ぶ

すると、「水をかけて柔らかくしよう」との提案がありました（水道の使用を認める）。「水を運ぼう」「土器を使っただろう

が、作る時間はない。バケツは使えない」「手で運ぼう」しか

悪い。そこで、生徒たちは考えます。手のひらに大きな葉を置き、その上に水を入れて運ぶことを考えました。賢い発見は他の生徒に伝わり、水を運ぶ班と穴を掘る班ができ、「仕事の分野」も始まりました。

やがて、水を口で運ぶ生徒が出始めました。土を掘る手元から水を吐き出します。この様子を見て「汚い」とか「いやだ」とは誰も言いません。それどころか、それを真似て運ぶ生徒が増えました。

無駄口もなく、サボることもなく黙々と作業を続け、五時間かけてバケツ九十杯の土を掘り出しました。

その後、スコップ・トウゲワ・ツルハシなど、生徒たちが使える道具を使用した作業に変えると、たった一時間で水も使わず、倍の量の土を掘り出し、竪穴部分の作業が終了しました。

翌日は木を切り、支柱を建て、屋根の柱を組み合わせて、予定した作業を完了しました。

石斧で木を切るのですが、木は比較的簡単に切れても、枯

れた木は堅くて切りにくい。石斧は、土を掘るの方が役に立つ。



支柱を建てるための穴掘り作業

支柱を一本一本丈夫に建てるのは大変だけど、八本の支柱に横木を組むとどっしりした。木と木を生の蔓で結ぶと切れてしまふ。乾いた蔓なら強いのだろうか。やってみて解る貴重な体験の数々でした。



なかなか中心で合わない

授業を通して生徒たちは、縄文人の智慧と工夫の凄さに気づきました。生徒たちの縄文体験はわずかででしたが、縄文人の力

に共感することができた貴重な体験だったと思います。

（設楽町文化財保護審議会委員

加藤 紘市）

※鞍船遺跡（設楽町津具字鞍船）縄文時代前期後半が主体の遺跡、大正時代に発見され、戦後の調査で六棟の住居跡が出土した。

昭和五十三年八月、津具中学校の二年生が、鞍船遺跡の竪穴式住居を作る授業をしました。縄文人の智慧と努力に共感し、縄文時代の人々の生活を理解させるのがねらいです。

はじめは、可能な限り縄文当時の条件で体験させ、次は、現在の道具で、生徒が使える道具を使用して体験させました。

二つの体験を比較し、縄文人の偉大さに気づかせたいのです。授業は鞍船遺跡の調査から始め、自分たちの力で再現する竪穴式住居の大きさやしくみを調べました。その結果、

- ・直径六、八メートル最深部二十九センチメートルのすり鉢状の竪穴を掘ること
- ・竪穴の中に八本の柱を建てる穴を掘ること
- ・八本の柱を建てて家屋の骨組み